



七里小だより

春休み号

さいたま市立七里小学校
令和6年3月26日

「来年度に向けてタツ（立ち）上がります」

さいたま市立七里小学校
教頭 田中 辞

本日は5年度学校生活最終、205日目。5月にコロナが2類から5類に変わったことで、本来の学校生活が戻ってくる兆しを感じた今年度のスタートでした。明るい未来を思い描きながら、本日まで「えがお かがやく 七里っ子」を目指して児童とともに我々教職員も立ち上がって進んでまいりました。保護者・地域住民の皆様には、多くのご支援をいただきました。

さて、先日の卒業証書授与式のお話です。49名の152期生が中学校へと巣立ちました。臨席し、改めて卒業式は小学校生活最大の行事だと感じました。初めて跳び箱が跳べた日、些細なことでもけんかをして体育館の影で泣いた日、雪で真っ白に染まった校庭で遊んだ日…全ての出来事は素晴らしい式をするための演出だったのではと感じてしまいます。式で輝いたのは卒業生ですが、1番の忍耐力を見せたのは在校生代表5年生でした。祝福する気持ちを高め、主役を際立たせるためにじっと見守った5年生。名脇役あつての名ドラマでした。立派な新6年生に七小をお任せします。

続いて、本日の修了式のお話です。各学年の代表児童が、校長先生から修了証を受け取りました。修了証は通知表の最後に納められています。通知表は、担任をはじめ、関係した教員が、子ども一人ひとりをまっすぐに見つめ、作成させていただきました。通知表の中にある課題は課題として励ましながら、何よりも子どものがんばったところ、成長したところをしっかりとほめていただきたいと切に願います。頑張っていない子、成長していない子など1人もいません。今後の本人の気持ち次第で、今後のよいところもそうでないところも変わってきます。

先日の学校運営協議会でのことです。相手の目を見て「おはよう」が言える児童が増えていると感じているというお話をいただきました。年度末に向けて校長先生は、「ひとつお兄さん、お姉さんになります。上級生にしてもらったことを下級生にしてあげましょう。」と子どもたちに伝えてきました。相手の目を見てあいさつできているということは、日常生活の中で上級生から下級生への伝えていくことが自然と取り組んでいることの表れであり、七里小の伝統と言っても過言ではありません。七里っ子の「素直さ・優しさ」は、着実に引き継がれています。

明日からは春休みです。ご家庭で過ごす時間が長くなります。保護者様にお願いです。お子様とスキンシップを図っていただけますでしょうか。1日1回でよいのでお子様をぎゅっと抱きしめてほしいのです。これが子どもの情緒面を安定させます。入学や進学前後は、環境が劇的に変わる緊張の連続です。そのときに、1番の安心感のもとになるのが、保護者の方の存在です。ちょっとした不安感から自然に立ち上がってこられるようになるのも、ご家族の励ましがあつてのことです。お家が子どもにとって充電保管庫でありますように。心の安定が実は学力の安定にもつながります。

来年度も、七里小は落ち着いた学習態度と学力向上を目指します。持続可能な教育の推進のために教職員で知恵を出し合い、子どもとともにますますタツ（立ち）上がって取り組んでまいります。

最後になりましたが、保護者、地域住民の皆様におかれましては、1年間温かく支え、見守ってくださり大変ありがとうございました。153年目を迎える七里小を引き続きお願いいたします。